



# 兵庫支部 NEWS H21年 12月号

北九州市立大学同窓会兵庫支部 編集発行人 名越英昭(TEL078-792-6130)

ホームページ http://www.hi-net.zaq.ne.jp/kono メール hn75kb@ybb.ne.jp

購読料 12回、1,500円(送料込)

購読のお申し込みは郵便振替

振替口座:00980-2-245822

口座名:北九州市立大学同窓会兵庫支部

## 今年も楽しく年忘れの会 総勢24名が集い、ワイワイガヤガヤ

今年の忘年会は、12月第1土曜日の12月5日に「三金会」定例会会場である「本館牡丹園」において午後5時半から総勢24名が集い、7時半過ぎまで楽しいひと時を過ごした。



(後列左から、久芳、小野、藤田、河野、安部、後藤、得田、牛丸、謝、山田、松山、中村、藤澤、前原、安徳、二宮、前列左から青木、大西、御堂、大村、明、平間、名越) 二宮氏撮影

年末の神戸の最大イベントの「神戸ルミナリエ」が始まった直後の土曜日とあって、会場への通り道となる、ここ本館牡丹園前の通りは大変込み合っていた。

関西支部から大西正直(39商)副支部長と御堂隆輝(47経済)相談役・前支部長を迎えて、二宮事務局長の開会宣言で懇親会が始まった。初参加の中村明人(41商)久しぶりの牛丸敬孝(51中)等会員22名とゲスト2名の24名が広東料理を



楽しんだ。懇親会半ばには二宮事務局長が進行役となり、出席者ひとりひとりが自己紹介名前と卒年だけの人もあれば、同窓会の行く末を案じ(挨拶する御堂関西支部相談役)る人、人間の欲望の一つ集団欲について語る人等など午後7時半ごろ記念撮影をし、散会となる。

この機会に是非と、「神戸ルミナリエ」見物に出かける人、まだまだ宵の口と二次会に繰り出す人、それぞれに神戸の夜を楽しんでいただいたことだろう。

来年も兵庫支部のご支援をお願いし、お元気で輝かしい新年をお迎え下さいますようお祈りします。



損害保険・医療保険・がん保険

の総合保険代理店

安心の発信基地

## 大村保険サービス

代表 大村 実良

(昭和33年商学部卒)

652-0897

神戸市兵庫区駅南通3丁目4-1-302

TEL 078-671-7318 FAX 078-671-8316

## 兵庫支部月例会11月「三金会」

### 元「雲南茶苑」ママ李紫君さんお帰りなさい

11月20日(金)囲碁の会の大幅な遅延のため、定刻より30分以上遅れて開会した。

囲碁の会は3階に特別に設えた碁会所にて行われ、三金会は通常2階の円卓席で行われる。定刻前に三金会に出席するために来た人は、2階の三金会予定の席で待つことになる。それだけに囲碁の会出席者は定刻前に終了して、三金会予定席へと移動することが求められる。

二宮事務局長から忘年会への出欠状況が報告され、大村支部長から関西支部総会(10/18)や本部評議会(10/24)及び総会・懇親会(10/25)等について報告があった。また、歩こう会は100回記念を迎えるにあたり記念行事として12/20(日)讃岐うどんバスツアーを開催することが報告された。



(前原、二宮、李、安徳、大村、中村、河野、山本、名越、平間)

かつての三金会会場「雲南茶苑」のママ、李紫君さんが突然訪れてこれら一同びっくり。8月からご実父看病のため里帰りされていたのだが…。すでに雲南茶苑は手放しておられるので、これからどうするかは未定とのこと。

本日の出席者は上記写真の10名と途中で帰られた赤松氏とで11名であった。

## 「囲碁の会」11月例会

### 第15回リーグ戦開始

今年1月から10月まで戦われた第14回リーグ戦は、大岡7段の優勝で終わり、11月からは第15回のリーグ戦が始まった。

上述のように大幅な遅延があったため、大村支部長から平間会長に対し、定刻前に終わらせるよう嚴重な要望があった。

この日の例会に囲碁の会メンバー全員が揃い新しいリーグ戦に挑んだ。

参加メンバーは

大岡一成7段

平間正昭3段

山本信司初段、

名越英昭2級、

前原賢作3級、

赤松初夫3級

安徳信義4級、

河野旺生5級



(全員そろって心リーグ戦に挑戦)



## カニカニクラブ例会

## 城崎にて

浜田勝義(44米英)

私が1年の中で最も楽しみの一つとしているものが「カニカニクラブ(Crab Club)」である。

これは7年前の平成15年に発足し、昭和44年卒の同志が集い、カニを食べながら会員相互の親睦を深める会である。幹事は竹田、山田両氏。毎年10人前後の参加がある。今年は11月28日・29日に城崎であり、7人が参加した。



(城崎にて、竹田、松山、浜田、澤田、山田、長岡、安徳)

城崎は志賀直哉作『城の崎にて』の舞台をなつたところである。

28日は午後3時に旅館サンルートにチェックインし、その後全員で城崎七湯巡りにでかけた。どこも満員で時間的に入浴できたのは、「御所の湯」と「まんだら湯」の二湯だけだった。それでも体は十分に温まった。

夜の宴会ではタイの活造りやカニのフルコース、地酒香住鶴を賞味し、至福そのもだった。宴会後は話に花が咲き、政治、経済、社会、教育問題などが論じられ、良い学習会となり、得るところが多かった。

29日は、起床後旅館に最も近い「鴻の湯」に入浴し、朝食後記念撮影をした。

午前9時に城崎温泉ロープウェイで大師山上へ行き頂上から温泉街を一望することができた。

10時ごろ土産を買い求め湯けむりの町城崎を後にした。この2日間は、とても楽しく充実した2日間だった。

この会も今年で最終という。何とか存続できないものか、大変惜まれる。

それにしても多忙の中、この会を7年間にわたって計画して下さった幹事さんに感謝の念が堪えません。どうもありがとうございました。

## 「三金会」「囲碁の会」会場ご案内 本館牡丹園

神戸市中央区元町通1丁目11-20

電話 078-332-4588 FAX 078-392-3020

JR元町駅東口海側下車、南へ(大丸方面へ)徒歩1

## 「三金会」

毎月第三金曜日 午後6時～

会費:3,500円(男性)

2,000円(女性)

## 「囲碁の会」

毎月第三金曜日 午後3時～

参加費:無料、ドリンク/500円



## 歩こう会番外行事

## 初日の出選拝と初詣

毎年行われている初日の出を拝み、初詣をする元旦の行事を、今年は昨年同様に下記の通り、諏訪山のヴィーナスブリッジにて行いますので、できる限り多くの方々のご参加をお待ちしています。

記

集合日時:平成22年1月1日午前6時

集合場所:JR元町駅西口北側(山側)

JR元町駅西口→県庁前→相楽園前→諏訪神社→

諏訪山公園ヴィーナスブリッジにて初日の出選拝

日の出時刻:午前7時06分(118° 東南東の方向)

但し葛城山・金剛山上から出るので少し時間が遅れるはず

初詣予定:生田神社

参加連絡先:二宮慶治郎

電話078-851-1875 携帯090-5010-4954

E-mail:ninom406@skyblue.ocn.ne.jp

## 関西支部新年会のご案内

関西支部では例年新年会を開催しており、来年は、1月24日下記要領で開催されますのでご案内いたします。

記

行 事:関西支部新年会

支 部 長 松尾祐嗣、45経営

実行委員長 宇都龍彦、45経済

開催日時:平成22年1月24日(日)

正午～午後3時

開催場所:新大阪ワシントンホテルプラザ

電話 06-6303-8111

会 費:男性 7,000円

女性 6,500円

アトラクション:ハーモニカ演奏

杉山剛太(34商)

カラオケ、

ピンゴゲーム

申込締切:1月15日(金)

申 込 先:関西支部事務局

(鈴木哲事務所内)

電話 06-6955-1488

又は:兵庫支部事務局 二宮慶治郎

電話 078-851-1875

携帯 090-5010-4954

E-mail:ninom406@skyblue.ocn.ne.jp



## 投稿大歓迎

皆様のご投稿を待っています

旅行記、随筆、自分史、短歌、俳句、川柳など  
あるいは本紙に対する御意見・御感想、何でもOK

## 広告大歓迎

掲載料:1/10頁、1回500円

お申し込みは6回分3,000円で御願います



## 世界遺産熊野古道めぐり

## 第8回紀伊田辺(高山寺)から稲葉根王子まで

当初11月11日(水)を予定していた。和歌山市地方の集中豪雨の為、阪和道泉南IC以遠は通行止めとの携帯ラジオの情報を聞きながら、神戸は小雨模様で待機していたバスに乗り込み谷上、神戸と、いつもの通り集客し出発。しかし税関前辺りでバスは一時停車し、添乗員は本社と連絡を取っている模様だ。

又走り出し高速道に乗り泉大津PAまで、そこでトイレ休憩している間に結局中止命令が出て、神戸まで引き返す。翌週水曜日18日に延期と決まった。

18日は快晴に恵まれた。今回から紀伊路と別れて中辺路に入る。語り部さんの衣装も菅笠に作務衣に変わり、男性の語り部さんとなる。

前回の終点、高山寺への参道横の駐車場に到着したのは予想より早く10:40、そこで山之内語り部さんと合流。最初に訪れたのは石柱のみがある「秋津王子跡」。藤原定家の後鳥羽院熊野御幸記(1201)に記述あるが、藤原宗忠の中右記(1109)の熊野詣で記事にはないため、その間に祀られたものと考えられている。

しばらく会津川沿いに歩き、こんもりと茂った森に(秋津王子跡の石柱)やってくると昼食を予定している須佐神社に到着した。所が弁当がまだ来ていない。我々の到着が早すぎたのか? 10分位で弁当が配達されてきて、暖かい味噌汁を紙カップに、おまけにみかん2個ずつが配られた。須佐神社は神武天皇が即位の時に祭祀されたといわれ、秀吉の紀州平定の際、当神社のみ兵火を免れたそうだ。

昼食を終えて再出発したのが丁度12時。再び会津川沿いの道をしばらく歩く。やがて「万呂王子跡」の説明板の前にやってきた。秋津王子と同様に「中右記」になく「御幸記」あり、(カメラにポーズをとる語り部)秋津王子から山を越えて万呂王子に着いたというのが、我々は川沿いの平坦な道を歩いてきた。かつての場所とは違っているのだろう。

「万呂王子跡」を示す石柱が梅林の中に百位入り込んだ所にあり、筆者一人だけ写真撮影の為近くまで寄って見た。(写真左)

ここから10分ほど歩いた処に「三栖廃寺塔跡」がある。奈良時代前期(白鳳時代、7世紀後半)創建の法隆寺式伽藍配置の寺院の三重塔の跡と推定されている(写真右)

次の「三栖王子跡」は小高い丘の上にある。

三栖の地名は藤原為房の日記、「大御記」にあり、1081年10月に熊野参詣の際三栖荘で宿泊したと。

(左は三栖王子跡を示す石碑)

三栖王子跡から古道らしい山道に入り、上り坂を約20分、先週の雨の中であつたら滑りやすく難儀しただろうと思われ、中止になって良かった。

峠を少し下った所に立看板があり、南方熊楠山中裸像撮影場所とある。日記からの一文だろうか、感冒平治の友人と写真を撮りながら山中に入り、裸になり喫煙しているところを写真を撮ったとある。

再び車道、県道35号線に出て暫くすると道標があり、そこを右折して「八上王子跡」に到着した。

1109年藤原宗忠熊野参詣時山を越えて新王子社に参拝と記述。地理的にみて八上王子社だろうと推定される。また藤原定家は1201年後鳥羽上皇に随行して「ヤカミ王子」に参拝と。藤原頼資は1210年修明門院に随行し「八神」王子社に参拝したと。明治時代に八上神社となり、現在に至っているとのこと。

また西行法師は熊野参詣途次ここに寄り詠んだ歌が歌碑に記録されている。「待ちきつる 八上の櫻 咲きにけり ならく おろすな 三栖の山風」

近くには「大賀ハス」群生地がある田中神社(西行法師歌碑)がある。大賀博士が発見した2千年前のハスの種子を発芽させ、各地に分根されたもので、7~8月に咲くそうで見ることではできなかった。

約30分歩いて本日の最終目的地「稲葉根王子跡」に到着した。この王子跡の前は水垢離場所となっていた。これまでは海岸で身体を清めていたので潮垢離場と称していた。ここでは、富田川(古くは岩田川と称されていた)で禊をすれば今までの罪がことごとく消え去ると信じられ、上皇や女院達も徒歩で渡ったという。(水垢離場の石碑と立看板)

古歌の一つに「いわた河 渡る心のふかければ 神もあはれと思はざらめや」花山法皇、と詠われている。石碑の傍の樹木は、坂本冬美記念植樹と記した標柱が立っている。ここ上富田町は彼女の出身地なのだ。

藤原宗忠の「中右記」1109年10月「伊奈波祢王子社に参り奉幣」とあるのがこの王子の初見だと。定家が参拝時、五体王子に準じて、儀式が諸事華やかであったと日記に記述。

菅笠を脱いだ語り部さんに見送られてバスに乗り込んだのが午後2時50分。本日の歩行距離約11km。帰路のバス車中で見事な虹を観ることができた。

(稲葉根王子社跡)

写真: 須佐神社本殿、秋津王子跡の石柱、田中神社、稲葉根王子社跡、三栖王子跡を示す石碑、水垢離場の石碑と立看板、語り部さん、虹



## 歩こう会11月例会

## 三田市の歴史を訪ねて

歩こう会11月例会は11月8日(日)三田市内の史跡や古刹を訪ねることとなり、JR三田駅に集合することになった。この日は六甲全山縦走大会の開催日で歩こう会会長の二宮氏は、4回目の踏破を目指して参加という事で例会は不参加。(残念ながら制限時間に間に合わず摩耶山辺りで中途リタイヤとのこと)

折しもJR宝塚線は快速電車が木の枝に接触したとかで列車が大幅に遅れ、当該電車で安徳氏が乗車していたため歩こう会スタートも結局25分遅れとなる。

参加者は安徳、平間、名越の3人のみ。平間氏は、20数年前に三田市に通勤していたことがあり懐かしさ一杯といったところだが、やはり随分と変わっているとのこと。

本日のコースはNHKが「新兵庫史を歩く」という企画で兵庫県内各地を紹介しているものの一つを取り上げたものである。

先ず三田市内で一番歴史のある三輪神社へ。門前町の面影を残す商店街を通り抜ける。昔より道が広がったと平間氏。大和国一宮、大神(材)神社から分祀され、8世紀中ごろには三輪神社が存在していたとのこと。三輪神社に参拝、本日の無事を祈願



(三輪神社本殿)

して裏の鎮守の森を通り抜ける。江戸時代後期から昭和初期まで三田青磁を焼いていたという三田明神窯史跡園にやってきた。昭和47年から2カ年に亘り発掘調査され、県内でも貴重な近世の磁器を焼く窯跡ということ

で保存されたものである。園内には3本の登り窯が発掘保存され、発掘された焼き物の破片などが置いてあり、三田青磁について、いろいろと説明を受けた。



(1号登り窯)



(説明を受ける平間・安徳)三田市役所前までやってきて昼食弁当を買求めるためコンビニに立ち寄り、今度は、西へと進むと、大きな建物が目に入る。「郷の音ホール」である。三田市内のいろいろなコーラスグループのコンサートなどが開催されているようだ。

その横の広場に韓国濟州市から姉妹都市提携10周年記念として寄贈された「トルハルパン」石で作ったおじいさんという意味の石像が立っていた。



(郷の音ホール)

このホールの横の広場で昼食をとる。小春日和の陽射しの中で持参のビール、日本酒で気持ち良くなり、眠気も催して、ウォーキングも途中下車しようかと。

小一時間後再出発。次の目標は三田城址！

三田城は現在の県立有馬高校と三田小学校がある地域にあったそうで、三田小学校前の道路脇に「三田城址」の石柱があり廻りは石垣で囲み、それらしい装いがされていた。



16世紀半ば伊丹有岡城主荒木村重の部将荒木平太夫の居城だったが、17世紀半ば九鬼家が鳥羽から移封され幕末まで城主となっていたもので、代々の藩主の御墓はこれから訪ねる心月院にある。

その隣には川本幸民顕彰碑があり、初めてマッチ・ビール・写真機を試作した人とか、化学という訳語を使った人とも紹介されている。

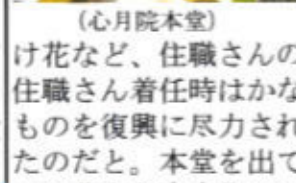
ここから15分ばかり行くと三田天満神社がある。丁度七五三参りのシーズンで境内には多くの氏子さんたちが詰めておられた。先程の三田城址でパンフにある古井戸が見当たらなかったと問い合わせると、有馬高校敷地内にあると。校門は閉まっていたが…と聞けば温室辺りの裏門から入れる、ただし現在新インフルで休校中とか。引き返して再度探そうと有馬高校内に入り隈なく探すも見当たらず。新インフルで構内には見事に人っ子一人もなし。あきらめて次の目的地「金心寺」に向かう。

金心寺は、1300年前藤原鎌足の子定慧上人によって建立と伝えられ、信長の摂津・播磨攻めの兵火で焼失江戸時代に再建後、明治に現在地に移転された由。御本尊弥勒佛の体内に「金心寺三福田(恩田・敬田・悲田)により三田と改める」という文字が発見され、三田の地名の起源とされている。



(御詠歌碑の下)

最後に訪れたのが三田藩主の菩提寺心月院である。住職さん出迎えてくれ、奥書院まで案内していただき色々説明していただいた。第十代九鬼隆国肖像や古地図の掛け軸、温故流の生



(心月院本堂)

け花など、住職さんの書も。聞けば住職さん着任時はかなり荒れていたものを復興に尽力され今の姿になったのだと。本堂を出て墓所に向かう。

三田藩主九鬼家代々の墓がある。(奥書院で説明聞く)第9代守隆(三田移封前の鳥羽藩主)をはじめ初代三田藩主久隆(第11代)から12代藩主精隆(第22代)までが同じ墓地にあるが13代(最後)の藩主隆義の墓は別の墓地、歴代の奥方の墓とともにある。明治維新後、死後も江戸を出られなかった歴代の正室を隆義が移転させたのだと。

ここには吉田茂の懐刀として活躍し白州次郎・正子夫妻の墓もある。戒名不要と梵字一字だけの墓石が立つ。三田の歴史に目覚めたウォークだった



(白州正子と次郎の墓)